

授業改善等に関する報告書（2020年後期）

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

[2020（後期）現代生活学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

| コース名 | 教員名 | 教員からのコメント |
|---------------|--------|--|
| 基礎メディア技術 | 河井 延晃 | <p>本授業（基礎メディア論）は、主に演習作業を中心としたシラバス構成として告知されていた授業です。ただし、今期の授業では、在宅／大学どちらでも課題制作を行うことのできる形式をとりました。</p> <p>この点をふまえつつ、授業評価にのなかでもあえて最低項目に目を通すると、本科目のなかでは以下の項目が最低の「3.50」となっています。</p> <p>「5. シラバスの内容や到達目標と一致していましたか？（授業の実施方法変更により、manaba・J-TAS等でシラバス内容の変更が周知されている場合は、修正後のシラバス内容を参照すること）」</p> <p>この点は、上記のような履修の個別対応が、結果としてシラバスの一貫性とやや距離があるものとして判断されたことが推測されます。この点について、改善策としては次年度以降の授業では「原則対面」が徹底されており、履修スタイルは統一されることが期待されます。</p> <p>一方で、評価の一番高い項目に目を向けると以下の項目で、4.0となります。 「13. この科目（系・分野）をさらに専門的に学びたいと思いませんか？」</p> <p>この評価が高い理由としても、授業を批判的に捉えたと「まだまだ物足りない」という意思表示とも解釈できるのではないかと考えます。</p> <p>特に、制作課題の振り返りなどがなかなか難しい状況であったこともあり、「応用メディア技術」ではそのようなフォローを次年度に積極的にできればと考えています。特に、全員必須ではなかったIllustratorなどの演習室で使用できる専門環境を使用しながら発展的に展開を考えています。また、本科目自体も次年度はコロナ禍に適応しやすいスタイルを想定したシラバス作成に努める予定です。</p> |
| コミュニティ概論 | 須賀 由紀子 | <p>コミュニティについて理解や興味を深めていただけたようでよかったです。人口減少がすすむこれからの社会、人のつながりはとても大切です。今後も関心を持っていただけるとよいと思います。</p> |
| プロジェクト基礎演習d | 行実 洋一 | <p>基本的に満足度は高かったが、学生自身の成長の実感がもう一つ十分でない感がありました。こうした成長実感を伴えるような授業の工夫を今後考えていきたいと思っています。</p> |
| Webテクノロジー演習 | 河井 延晃 | <p>Webテクノロジー演習は、テキストを基礎としつつ、前半は制作課題に取り組み、後半はウェブ制作とアクセシビリティやSEOについての発展的な内容としてサービスの比較分析や報告をおこないました。</p> <p>授業内でのアンケートを見ると、WebコーディングやCSSに対して、「おおむね理解できた（6, 7割、ほどよい難易度）2(66.7%)」「理解できないことが多かった（2, 3割）（33.3%）」とあり、特に技術的な部分はテキストを大事に、復習を繰り返して定着させようという授業を進める必要があると考えました（簡単だった、ほとんど理解できないは0%）。</p> <p>前半の制作課題、後半のレポート課題どちらも最後まで大変だったと思いますが、課題修正なども含めて最後まで頑張られた皆さんは成長を実感できたのではないかと思います。</p> |
| 自立生活論c（安全と保障） | 久保 行幸 | <p>この授業を通して、少しでも防犯意識が高まれば幸いです。課題レポートはすべての学生が理解していることを確認でき、安心しました。確認テストは2問ほど、ひっかけ問題があったかもしれないので、次回からのテスト作成時には留意したいと思います。また、当初ZOOM受講生には不手際があり、失礼しました。</p> |
| グローバル社会 | 高橋 徹 | <p>満足度が低い授業とは言えなかったと思います。授業のスピードや分かりやすさはそれなりに高い評価をもらっていますが、一方で専門的に学びたいかについては極めて低い結果になっており、つまりは分かるけれど単純に面白くない授業になってしまっていたと考えています。分かりやすいだけでなく、受講者の興味関心にそった授業を心がけたいと思います。</p> |
| 広告とメディア | 行実 洋一 | <p>全体的に高い満足度を得ることができましたので、次年度授業も引き続き同様のコメントが得られるよう努力したいと思います。</p> |

[2020（後期）現代生活学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

| コース名 | 教員名 | 教員からのコメント |
|--------------------------|----------------|--|
| 現代社会を読み解く d (科学技術と社会) | 菅野 元行 | <p>履修生45名中20名の回答となり（回答率44%）、総合的な満足度は4.75（5.00が最高点）となりました。最初から二回は教室・オンデマンドの同時開催でしたが、3回目以降は完全にオンデマンド授業となり、昨年度よりも授業内容、資料・音声ともに工夫し充実できた結果、回答率（昨年度27%）、総合的な満足度（昨年度4.38）ともに増加しました。しかしながら1年生が主体のこの科目において、前期の環境科学概論と比べると回答率の減少（前期の環境科学概論は80%）が明らかです。今後は単位のためだけでなく自らの勉強のために履修科目を選ぶことを心がけて下さい。</p> <p>回答していただいた方々と、自由記述欄に記載していただいた方々に御礼申し上げます。その一部を掲載します。「再エネの利用のされ方や特徴などを事例と共に学ぶことができ、現状も理解することができた。」「オンデマンド型でも内容を十分理解できた。でも対面の機会をつくってくれたのはうれしかった。」「日本の発電方法の仕組みについての理解が深まりました。（5名）」「毎週毎週の課題の中で質問を書き込めるような環境にあったので安心して進められたので良かったです。」「講義も課題の提出方法もわかりやすく、困ることなく講義を受ける事ができました。丁寧な講義をして頂きありがとうございます。」「授業を受けて良かったのは、先生の説明がわかりやすく内容が頭に入りやすかったことです。」「音声を聞きながら空欄を埋めることで、しっかり頭に内容が入るので、オンデマンドがふさわしいと思った。」「説明が分かりやすく、音声を巻き戻しながら資料と照らし合わせて内容をしっかり理解することができた。」</p> <p>お一人だけ「課題提出期間が長めに設定してあったので助かりました。ただマナバをあまり拝見されないようなので、連絡手段に困ります。」というコメントがありましたが、私自身は採点結果でご存じのように毎週確認してましたし、個別指導は届き次第返信してました。この方は別の設問で「ネット文化に関する事柄を時代経過と共に確認ができ、ネット文化について教養が深まった。」と回答された方でしたので、科目を間違えて回答されたようです。授業アンケートは間違いの無いように記述していただきたいと思えます。今後も分かりやすい授業を心がけます。</p> |
| プロジェクト基礎演習 a | 菅野 元行 | <p>履修生8名中1名の回答に留まり（回答率15%）、総合的な満足度が4.00（5.00が最高点）となりました。オンデマンド授業となり、昨年度よりも授業内容、資料・音声ともに工夫し充実でき、プレゼン資料の添削にも時間を掛けましたが、回答率は変わらず（昨年度15%）、総合的な満足度（昨年度4.50）が低下したことは残念に思います。</p> <p>回答していただいた1名の学生には自由記述欄にも記載していただき御礼申し上げます。そのすべてを掲載します。「見やすい資料作り方についてよく理解できました。」「間違いなどの指摘があり、その通りに作り直すことでしっかりまとめることができたと思えます。」</p> <p>この科目の履修生は毎年、私のゼミに進む学生が多い、言い換えれば演習科目のため本当にこの領域に関心の高い学生のみが履修する傾向でしたが、今年度の履修生で私のゼミに進んだ方は皆無で、3年生は他のゼミから履修される状況であったことも残念です。「添削してほしい」という学生の要望は他の科目では聞いていたため、詳細に添削しましたが、多くの学生は前半の説明を会得しておらず、結果として添削で指摘した量が多くなったことも低い回答率の結果につながったかもしれません。ただし、厳しく添削されるとプレゼン技術は伸びませんし、「メディア」も含んでいる学科のため、「プレゼンはできて当たり前」と一般的には解釈されます。</p> <p>演習科目では、自分が何をしたいのか、どのような力を付けたいのかを考えて、自発的に取り組み、必要に応じて教員に訊ねる積極性が必要となります。（これらの意欲があれば前に進めます）今後も意欲ある履修生の力を伸ばすことを心がけます。</p> |
| 家庭経営 c（育児・介護） | 高橋 柱子 細江 容子 | <p>育児は高橋が、介護は細江先生が担当しました。1年生対象講義なので、まずは大学の90分授業に慣れてもらい、楽しんで受講いただけるよう配慮しながら講義を設計しました。</p> <p>育児は、人間とは何だろう、どんな動物だろう、を知る視点と、昨今の幼児教育の観点からの講義。「双方向授業で、グループワークをしながら、臨場感ある講義だった」との評価、狙い通りです。</p> <p>これを入口に、様々な社会事情に関心をもっていただければと思います。細江担当の介護の部分では、人生100年時代の高齢者の新たなイメージの提示や今日の介護場面における多様な課題について、双方向授業で、グループワークなどをしながら、課題に向き合う講義だったと感じた。</p> |

[2020（後期）現代生活学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

| コース名 | 教員名 | 教員からのコメント |
|----------------|-------|--|
| 地域エネルギー論 | 菅野 元行 | <p>履修生41名中6名の回答に留まり（回答率15%）、総合的な満足度が4.83（5.00が最高点）となりました。オンデマンド授業となり、昨年度よりも授業内容、資料・音声ともに工夫し充実できた結果、総合的な満足度（昨年度4.17）は顕著に増加しました。一方、回答率は昨年度（14%）と同様で、17年のこの科目の回答率が41%であったことから考えると、今年・昨年は科目に対する関心ではなく、単位取得など別の理由で履修している学生が増加していることは非常に残念に思います。</p> <p>回答していただいた方々と、自由記述欄に記載していただいた方々に御礼申し上げます。その一部を掲載します。「日本のエネルギー自給に関してとても理解が深まりました。」「地域エネルギーについての理解が深まった。」「地域活性化に発電の再エネ事業が行われていることについて詳しく知ることによって地域のために何ができるのかということの選択肢が広がった。」「地域の様々な事例を知って、どのような取り組みを始めることができるのかを考えることができました。」「地域自立型エネルギーや、再生可能エネルギーについて理解を深めることができました。」「地域とエネルギーのつながりと再エネの普及状況についての理解が深まった。」「日本各地の様々な事例から、地域自立型エネルギー事業について学ぶことができて嬉しかったです。」「資料や音声を何度も繰り返し聞くことができたので良かったです。」「この授業は無駄がないように先生が作成していると思う。聞いていて集中とても集中できた。また、課題があることによって学んだことを自分の知識にしやすいと思った。」</p> <p>今後も分かりやすい授業を心がけます。</p> |
| メディアコミュニケーションb | 河井 延晃 | <p>本授業（メディアコミュニケーションb）は、座学を中心とし、初期は在宅／教室自由選択とし、後半にかけて在宅オンデマンドの形式で授業をおこないました。</p> <p>まず、評価の最低項目である項目として、「8双方向授業の工夫」、「10担当教員の声の聞き取りやすさ」が低く、「6授業スピード」、「9PowerPoint資料や配布資料のわかりやすさ」は4を超えていました。</p> <p>前者の評価の低い項目については、オンデマンドに移行して双方向の形式ではなかった点が影響していると思います（オンデマンドは3に固定評価）。それぞれ、次年度は対面を中心とした授業になる予定ですが、オンデマンドにおいても双方向動画などが可能な授業では双方向性を生かした授業としてデザインしてゆく余地があると考えさせられました。</p> <p>一方で、評価が4を超えた「授業を通じての自身の成長」「さらに専門的に学びたいか」「総合的な満足」は4を超えたものの、「この授業に対する自己採点」が4を切っている点は、課題などに対する手ごたえや実感が少なかったという解釈ができるかもしれません。オンデマンドでのフィードバックの量を増やすなどが今後の改善案になるかと思っています。</p> |
| 環境化学演習 | 菅野 元行 | <p>履修生9名中3名の回答に留まり（回答率33%）、総合的な満足度が3.67（5.00が最高点）となりました。オンデマンド授業となり、昨年度よりも授業内容、資料・音声ともに工夫し充実でき、プレゼン資料の添削にも時間を掛けましたが、このような結果となり残念に思います。自由記述欄に記載していただいた方はおられませんでした。環境化学の詳しい説明の資料と音声も用意しましたが、満足度の低い結果となり、残念で仕方ありません。</p> <p>「添削してほしい」という学生の要望は他の科目では聞いていたため、詳細に添削しましたが、何人かの学生は前半の説明を会得しておらず、結果として添削で指摘した量が多くなったことも低い回答率と満足度の結果につながったかもしれません。ただし、厳しく添削されるとプレゼン技術は伸びませんし、「メディア」も含んでいる学科のため、「プレゼンはできて当たり前」と一般的には解釈されます。</p> <p>演習科目では、自分が何をしたいのか、どのような力を付けたいのかを考えて、自発的に取り組み、必要に応じて教員に訊ねる積極性が必要となります。（これらの意欲があれば前に進めます）今後も意欲ある履修生の力を伸ばすことを心がけます。</p> |

[2020（後期）現代生活学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

| コース名 | 教員名 | 教員からのコメント |
|-----------------------|---------------|---|
| 現代社会を読み解くc (文化と市場) | 河井 延晃 | <p>この授業では、前半を対面授業とし、中後半はオンデマンド授業で行いました。</p> <p>今年度から「ネットが生んだ文化」をテキストとして、新聞記事なども参照しつつ、授業を進めてゆきました。</p> <p>まずアンケートの最低項目から確認しておく「8 双方向授業の工夫」が最低となり3.55（5が最高）となっています。今期授業自体はオンデマンドでなく、教員側としては双方向授業も可能でしたが、履修者が多く必ずしも双方向授業を履修できない（希望しない）学生にも配慮したためです。</p> <p>「9 板書やパワーポイントのわかりやすさ」がそれに続き3.65と低い数値になっていますが、これも新規科目として試行錯誤している過程で、今期は音声+テキスト、テキストだけなどとして変化していました。授業としてはある程度やり方を終始統一した方が良かったかもしれません。</p> <p>なによりも、後半のテキスト内容はやや難しい部分もあり、このあたりを時間をかけて講義するなどにより、わかりやすさにたいする改善が見込めると考えます。また、授業で扱う内容を少し減らすことで、結果として理解度を上げることができると考えますので、改善につなげてゆきたいと思えます。</p> |
| 女性社会論b | 須賀 由紀子 | <p>これからの社会と女性の生き方について考える視点を育てただけただけです。「これまでの自分を振り返り、次に活かしていく行動力が身についた」とコメントもいただいています。ぜひ、これからは活かしてください。</p> |
| プロジェクト実践演習b | 須賀 由紀子, 合原 勝之 | <p>ブランドの考え方や表現するという面白さや難しさを修得していただけたかと思えます。実社会に出て役に立つスキルを得ていただけたと思えますので、ぜひ活かしていただければと願っています。</p> |
| プロジェクト基礎演習b | 須賀 由紀子, 合原 勝之 | <p>表現することの楽しさ、ものづくりをする際のアプローチや方法、アイデアの出し方について、理解を深めていただけたようでよかったです。ぜひ、この授業で得たことを、実践的に活かして行ってください。</p> |
| プロジェクト基礎演習c | 須賀 由紀子 | <p>市役所の方からいただいたテーマに挑戦し、発表も行って、よい経験になった、実践的に身につけられたことが多かった、とのコメントをいただいています。粘り強く取り組む姿勢も得られた授業だったのではと思います。授業で得たことを、また今後ぜひ活かしてください。</p> |
| ビジネスプランニング | 河井 延晃 | <p>本授業（ビジネスプランニング）については、前半は対面授業、ゲスト講師講義などを経て、チームを作った後は、在宅での授業対応へと切り替えました。</p> <p>学生の調査報告をZOOMやプレゼンテーションツールで行うことを第一の目標としているため、学生の調査内容の報告が最終課題となりました（4, 5週ほどで発表会を開催）。</p> <p>全体の授業評価項目のなかでも「7 説明のわかりやすさ」「PowerPoint資料のわかりやすさ」については、この点が影響していると思えますが（評価3.81）、これについては時間をもう少しとって、教員から発表後にコメントを多く付与する、さらには学生からの質疑を増やすことで改善できたのではないかと考えます。授業を終えてみても、もう少し準備期間を短く設定して、発表やコメントに時間をかけたほうが良かったかもしれません。</p> <p>また、個別に相談された点ですが、チーム作業などには抵抗感をもつ履修者の声も伺っています。これについては、チーム分けの際に学生間の希望を反映させるような形で進めることもできますが、どちらかといえば入学一年目でまだ話したことの無い学生と知り合うきっかけになればと思って進めています。</p> |
| 環境思想演習 | 犬塚 潤一郎 | <p>オンライン演習形式で、各回、講義と討議、課題研究を積み重ねることができました。学んだことに基づき、応用的に考えることは難しかったと思えますが、補足・発展的に自分で調べ、考えをまとめることについて、各自に応じて、着実に力をつけられたことと思えます。</p> |
| メディアアート論a | 犬塚 潤一郎 | <p>オンライン形式で、講義と討議、課題取組を積み重ねることができました。学習の方法としては、複雑なものを、より精密に捉えてゆく知力を鍛えてゆくことですが、このタイプの学習を楽しむ姿勢作りも目的となります。その点、答え合わせが気になる、という気持ちが最後まで残る方もなかにはおられるので、気を付けたいと思えます。</p> |

[2020（後期）現代生活学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

| コース名 | 教員名 | 教員からのコメント |
|----------------|--------|---|
| 地域文化形成論 | 須賀 由紀子 | 地域活性化のこ、地域の文化資源の活かし方を学べたとのコメントを多くいただきました。ぜひこの授業で学んだことを、これからの地域の豊かさに活かしていただければとおもいます。 |
| ゼミナール | 河井 延晃 | <p>本年度のゼミナールでは前期にMSのTeamsを使用し、前期は「ネット社会とTRUST」に関する文献輪読、後期は「第四次産業革命」やSociety5.0に関する資料を輪読しました。結果として、データ共有やオンライン授業も対面に遜色ない程度にできたと思いますが、これは学生のまじめな取り組みに支えられたものでもあることは言うまでもありません</p> <p>授業評価に着目すると、数値そのものは高いですが、外部連携などのプロジェクトや、卒論テーマ報告会（合宿）などが例年のようにできなかったで、不便をかけているものと思います。</p> <p>また、例年になく授業内容以外にもキャリアなどの話や新聞記事を参照することが多かったゼミだと思います。コロナ禍では誰もが未経験の状況も多く、新しい慣例や習慣もできつつありますが、遠慮なく相談していただければと思います。 （今年度後期同様に、次年度も4月頃に希望者に向けた個人面談などを予定しています。）</p> |
| ゼミナール | 須賀 由紀子 | 制約も大きい中でしたが、いろいろな経験ができた3年ゼミだったと思います。3年ゼミの経験を、次のファイナルプロジェクトに活かしていきましょう。 |
| ゼミナール | 行実 洋一 | 学生からのコメントがありませんでしたので、こちらからも特にありません。 |
| ゼミナール | 高橋 徹 | フィードバックがないため私見のみですが、コロナウィルス対策のためにオンラインでのゼミ進行でしたが、反省点が多くあります。特に問題なのはグループワークでの進行です。グループで話し合いを重視したのは間違いではなかったと思いますが結果として進行が大分遅くなってしまった部分がありました。今後はオンラインのグループワークを円滑に進める工夫としてツールの導入などを検討します。 |
| 統計とモデリング | 犬塚 潤一郎 | 狭い意味でのデータサイエンスに限らず、数理的な情報認識についての学術と技術について、見通しを得るための入門的講座ですが、専門的データの分析や技術講習を経験しながら進めます。受講生のレベルに合わせて難度を勘案しますが、今期は少し高めの水準で実施することができました。多少難しさを感じられた方もいらしたと思いますが、学びの手ごたえは得られたものと思います。 |
| 自立生活論 a（健康） | 須賀 由紀子 | 健康なライフスタイルと社会について考える視点をいただけたようでよかったです。オンデマンドの授業も不自由はなかったようなので、安心しました。ぜひ、授業で得たことを今後に活かしてください。 |
| メディアプロデュース論演習 | 行実 洋一 | 学生からのコメントがありませんでしたので、こちらからも特にありません。 |
| メディア経営論演習 | 犬塚 潤一郎 | 文化政策をメディアという見地から評価・構想することをテーマとして、事例に基づいて理論探求に取り組みました。回を重ねるうちに、分析・研究の姿勢が身につく、精度が上がってきたことは、成果として認められると思います。国際的に先端事例を取り上げましたので、答えがすぐに見つかるようなものではなく、課題は難しく感じられたと思いますが、取り組みに応じた成長が確かに得られたと思います。 |
| 現代生活学 | 犬塚 潤一郎 | 自分自身が今生きている社会の実態と課題がいかに複雑であるのか、応じてどのように対応してゆくべきか。理解と対応の姿勢を身に付けてゆく授業ですが、講義、討議、課題に、大半の方がきちんと取り組めたようです。一方、全体からするとごく少数ですが、難しく対応できないとされる方もいらっしゃいます。そこに合わせて全体のレベルを下げるのは不適切ですし、補習的な対応も、その方には一層負担が増すこととなります。今後も同じことがあると思われまので、基礎学力の向上に自身で務めていただく必要があります。 |
| 環境マーケティング論演習 a | 犬塚 潤一郎 | 少人数で、テーマに基づき、毎回のディスカッションを重ねることができました。現状の問題を分析し、未来に向けて構想・計画する授業ですから、すでにある答えを見つけてくるようなわけにもいかず、最初は堂々巡りの状態でしたが、問題の把握が次第に確かなものになってきたようです。具体的な答えはまだ先です。研究を進めてください。 |

[2020（後期）現代生活学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

| コース名 | 教員名 | 教員からのコメント |
|------------------------|--------|---|
| ゼミナール | 野津 喬 | <p>回答者の全員が、この講義を通じて成長できた、この授業に満足しているという設問に「とてもそう思う」と回答しており、講義目的は達成できたと考えている。</p> <p>また授業方法についても「学生の事情に応じてzoomでの参加にも柔軟に対応してくださって、ほぼ毎回全員で参加できたことがよかったです」とのコメントがあり、適切であったと考えている。</p> |
| ゼミナール | 菅野 元行 | <p>私も気がついたら受付終了期間が過ぎていくらい、今年度の後期は締め切り早かったですね。もう少し回答していただけたらうれしかったです。回答いただいた方には感謝します。4人と少ないこともあり、意見交換は歴代で最も進んだと思います。コロナ感染拡大で様々な規制がある中でしたが、個人的には最大限の指導をしたつもりですし、皆さんも良くがんばったと思います。皆さんは4人なので手が抜けなかったかもしれませんが、大学生活の中で懸命に頑張ったことは皆さんの財産になっているはず（今そう思わなくても社会に出てから感じるはず）。君たち4人で本当に良かったです！</p> |
| 現代社会を読み解く a (政治と経済) | 岡田 美香 | <p>アンケートの回答をありがとうございました。</p> <p>オンライン授業で、かつレポートが2回、グループワークでのプレゼンテーションが2回あり、大変だったと思います。中間レポートと比べて、期末レポートの方がより充実していて、皆さんの学力の向上を実感しました。グループワークではお互いに刺激し合い、プレゼンテーション技術の向上や発表内容による学びがあり、良かったです。皆さんの協力により、充実したグループワークを行えました。</p> <p>「グループワークする時に発表の資料を作ることを教えて欲しかった」というコメントがありました。グループワークの1回前の授業で発表資料の準備が必要なことを言いましたが、その情報が全員にいきわたらなかつたようです。今後は情報の提示方法を工夫したいと思います。その他、一部動画が静止状態だった、課題を平準化して欲しいというコメントをいただきました。動画の静止状態については、どのような環境でそのような問題が起こるのか、検証していきたいと思います。毎回の課題の平準化については、課題の出し方に工夫をしていきたいと思います。</p> <p>皆さんのレポートやプレゼンテーション等と接し、それぞれの学生が異なる強みを持っていることを感じました。例えば、授業の理解力がすばらしい、レポートの課題設定が個性的である、レポートの構成が練られている、プレゼンテーションが伝わりやすい、話し合いの時の議事進行がスムーズである、など。皆さんはまだ発展途上です。自分の強みをみつけつつ、新たな強みを身に着けるため、試行錯誤をして下さい。大学がその試行錯誤を助ける場になることを祈ります。</p> |
| ゼミナール | 犬塚 潤一郎 | <p>今期の最終的な課題取組には、素晴らしい成果を示すものが提出されました。一方、全面オンライン化のこともあるのか、意欲をなかなか継続できなかった方もおられます。次は完成年度です。手ごたえを得た方も、未達の方も、一層の成長に向けて取り組みましょう。</p> |
| 育児学 | 於保 祐子 | <p>オンデマンド型授業でしたので、授業資料と要点まとめのプリントをmanaでも配布して、WEB視聴と机上のノートテイクを併用する事で集中して学修できるように工夫しました。オンデマンド型の利点を生かし何度でも視聴していただく事で学修が深まればと思います。manaを使ったレポート指導などをもう少し積極的に行ってオンデマンド型授業の補強ができればよかったです。</p> |